

文強勢・発話強調問題のマスター

文強勢・発話強調問題は10年のセンターからははずされ、出題されなかった。したがって、11年のセンター入試に向けてはこのタイプは基本的に対策をとらなくてもいいだろう。

ただし、「センター英語9割GETの攻略法」で全ての対策をし尽くしたという人は、このタイプの問題の問題に対する対策も読んでおいて損はないだろう。

1. 文強勢問題

① 文強勢問題ってなに？

それでは、さっそく第1問の攻略法。まずは文強勢問題からだ。

文強勢問題という名前を聞き慣れない人も多いだろう。説明するより、まずは実際の問題を見た方が早い。次の例題を見てみよう。

例題1

次の対話の下線部(1)、(2)において、それぞれ下の問に示された①～④の語のうち、ほかの3つと比べて最も強調して発音されるものを1つずつ選べ。

A: Excuse me. ① Could you tell me the way to the stadium?

B: Well, it's difficult to tell you, ② but I'll show you
if you come with me.

A: Oh, would you? Thank you so much.

B: You're quite welcome.

問(1)

① could ② you ③ me ④ stadium

問(2)

① but ② I'll ③ show ④ you

とりあえず、例題1の答えは問(1)が④、問(2)が③だ。

さてこのような文強勢問題を解く方法ってあるのだろうか。よく学校の先生なん

かから、こんな説明を聞いた人もいるかもしれない。

「会話における意味の強めが音の強め」

確かにその通りで、

- ①相手に自身の考え(主張)や気持ち(感情)を伝えようとするところ
- ②相手の意見を訂正、批判するところ
- ③相手に確認、念押しするところ

これらはすべて強く発音される。

これは日本語でも同じことで、例えば君の彼女に「明日4時に渋谷の駅前だったっけ」と聞かれて、「なに言ってんだい。新宿の駅前だろ」と答える場合、君は「新宿」を強く発音するはずだ。

こんなふうに日本語だったら、どこを強く読むかなんてのは簡単なんだけど、いかんせん英語の会話になれていない、しかも耳で英語の会話を聞く機会が少ない受験生にとって、英文の文脈から、意味の強めとなっている箇所を探すという作業は時間がかかるし、「たぶんこれかな～」的な答えの出し方にならざるをえない。実際模擬試験などで、この文強勢問題を“勘”を頼りにテキスト～に解くしかなくて、後で答えを見てトホホ…(+_+;)、ダツタなんていう人もケッコウ多いはずだ。

文強勢問題を、もっと確実に、しかもスピーディーに答えが出せる「ルール」はないんだろうか。

そこで、そんな迷える受験生のために、とっておきの「文強勢のルール」を伝授しよう(^-^)

(2)文強勢の4大ルール

これから挙げる「4大ルール」は、文強勢においてまず適用される、一番大事なルールだからしっかり頭に入れてほしい。

ルール①：新情報が入るとそこは強く読まれる！

例えばAとBの2人がいて、その間で以下のような会話がなされたとする。

A : Did you buy a car? 君車買ったのかい

B : Yes. I bought a red one. ああ。赤いのをね one=car

ここで、AとBの会話の下線部を比較してみると、Bの会話の中に1つだけ、Aが言っていない情報が入っている。それはred(赤)だね。そしてこのredは強く読まれる。このように会話の中に「新情報」が入るとそこは強く読まれるんだ。

このルールを逆に考えれば、「旧情報(つまり、既に述べられている情報)は強く読まない」ということも言えるんだ。

例題2

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: I wonder if I could use your tape recorder.

B: Ch, sure. You can use it any time.

① ② ③ ④

[解説] AとBの会話をよく見くらべてほしい。Bの会話の中のcanとuseとitについてはAも言っている(it=tape recorder)。④のanyだけがいわゆる新情報だ。ゆえに答えは④。

ルール②: 対照関係は強く読まれる!

例えばAとBの2人がいて、その間で以下のような会話がなされたとする。

A: Do you like Chinese dishes? 中国料理は好きですか

B: No, I like Japanese dishes. いいえ。僕は日本料理が好きです

この両者の会話の下線部を比較してみると、Aの Chinese とBの Japanese の部分が対照的な関係になっているのがわかると思う。このAの質問に対して対照的になっているBの Japanese は強く読まれる。これを「対照関係」のルールというんだ。

例題3

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Does this bus go down Forty-second Street?

B: No, it doesn't. It goes down Fifty-second Street.

① ② ③ ④

[解説] 「対照関係」のルールさえ理解していれば、至極カンタンな問題。Aのセリフの Forty に対して Bのセリフの Fifty が対照関係になっているのは誰の目にも明らか。ゆえに答えは②。

ルール③: 疑問文の答えは強く読まれる!

これは文字通りで、以下の会話では下線部が強く読まれる。

A: Where are you from?

A: Do you know him?

B: I'm from Canada.

B: Yes, I do. / No, I don't.

このように疑問詞(誰・何・どこ・いつ等)の答えにあたる語や、Yes[No]のよ

うな語は強く読まれるんだ。

例題 4

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Which book did you read last Saturday?

B: I read the history book.

① ② ③ ④

[解説] これもルールさえ知っていれば、中学生でも"秒殺!"で解ける問題。

Whichの答えにあたるのがhistoryなのは、これまた誰の目にも明らか。

ゆえに答えは③。

ルール④：強調語句は強く読まれる！

これは読んで字のごとし。強調語句なんだから強く読むのは当たり前だね。強調語句にはどんなものがあるかという、それは以下のようなもの。

①強調のdo(直後の動詞を強調する)

②強調のoneself(文中の名詞を強調する)

☞oneselfは、強調語句として使われていない場合でも強く読まれることが多い。

③simply, really, just等の強調の副詞。

☞ただし、reallyの場合、「not really」等は、「実際にはそうでもない」という意味で強調の意味で使われてはいない。

強調の意味では「really[simply]+助動詞+not+原形～」の形で使われる。

以下にその具体的な例文を挙げてみよう(下線部が強音化する)。

I do want to see him. [強調のdo]

僕は本当に彼に会いたいんだ

You must do the work yourself. [強調のoneself]

君が自分でその仕事をしなくてはならない

I simply[really] don't know what happened.

何が起きたのか全く知らなかったのです

例題 5

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Can I use your surfboard?

B: Sorry, I'm planning to use it myself this afternoon.

① ② ③ ④

[解説] ④の myself は主語の I を強調する、「強調のoneself」だ。ゆえにこれが正解。これまた"秒殺"。

③その他の文強勢のルール

ルール①：強音化する品詞と弱音化する品詞

英語には基本的に強く発音される品詞と、逆に弱く発音される品詞というのがあるんだ。

①強音化する品詞

👉「6大品詞」と覚えよう！

名詞・動詞・形容詞・副詞・疑問詞・間投詞

②弱音化する品詞〔その他全て〕

代名詞・助動詞・冠詞・接続詞・関係詞・前置詞

上図のように、数ある品詞の中で強く読まれるのは、「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」「疑問詞」「間投詞」の6つ。間投詞とは“Hello「こんにちは」”“Ouch「痛い」”などの挨拶や感情を表すもの。

要するにそれ以外の品詞は基本的に弱音化するわけだから、弱音化する品詞についてはイチイチ覚える必要はない。6大品詞のほうだけ、頭の中で、名詞・動詞・形容詞・副詞・疑問詞・間投詞と3～4回繰り返し返せば、カンタンに覚えられるはずだ。

ただ、この強音化する品詞と弱音化する品詞についての注意事項がいくつかある。

①代名詞でも指示代名詞と呼ばれる“this(these)”“that(those)”“such”などは強く読まれる。また、その this や that を形容詞的に使って

I want **this**[that] book. この[その]本が欲しい

という場合の this[that] も強音化する。

②動詞の中にも弱音化するものがある。

(a) say(言う) think(思う) suppose(思う) believe(信じる) know(知っている)など、「言う」「思う」系の動詞。

(b) S V C 構文を作る動詞。具体的には、be(である) become(になる) get(になる)、seem(見える) look(見える) appear(見える) sound(聞こえる)等。

(c) 連語になっている(つまりイディオムの一部になってしまっているような)動詞。

(ex) make progress

have a good time

そのわけは、「言う」「思う」やS V C 構文を作る動詞は、相手に意味合いを伝える気持ちが他の動詞に比べて弱いからなんだ。

それから、動詞が連語の一部として使われてしまった場合、その動詞のもともとの意味がうすれていしまうからなんだ。つまり "make progress「進捗する」" や "have a good time「楽しいときを過ごす」" の "make" や "have" にはもう「作る」「持つ」といった意味はもうほとんどなくなってしまっている。だから弱音化するんだね(ただそうはいつでも完了時制を作る助動詞のhaveよりは強い発音で読む)。

③「There+is[-動詞]+名詞」構文の"there"は副詞でも弱音化する。

この "there" を強く読まない理由も上と同じ。つまり「そこに」というもともとの意味がもうないからなんだ。

例題 6

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Did you hear about the big earthquake we had here two years ago?

B: Yes, I heard about it somewhere. Ah, now I remember — I read

①

②

about it in the newspaper.

③

④

[解説] 今説明したばかりの「文強勢のその他のルール」を知っているだけで、驚くほどカンタンに、しかもスピーディーに答えが出せる問題。

まず、下線の単語を眺めると、

①のaboutは前置詞。 ③のitも代名詞。

②のIは代名詞。 ④のnewspaperは名詞。

となって④だけが6大品詞だね。ゆえに答えは④(それに④は「新情報」でもある)。

あまりにも簡単すぎて驚いている人もいるかもしれない。でも「ルール」で解くというのはこういうことなんだ(^-^)/。

それから、一番最初に挙げた例題1の問題もこのルールで解けてしまうのがわかるはずだ。問(1)、問(2)のそれぞれの選択肢の中で「6大品詞」にあたるのは、問(1)では④(名詞)、問(2)では③(動詞)だけ(問(2)はtell「言葉で教える」とshow「見せて教える」が対照関係になっていると考えてもいい)。

そして09年度のセンターの新しいタイプの文強勢問題(例題7)も、このルールを使って「秒殺」できる。

例題 7

次の下線を引いた文において、強く発音する部分を最も適当に示しているのはどれか。下の①～④のうちから一つ選べ。強く発音する部分は●で示してある。

While holding down button C, press both D and F for five seconds.
 Oh, dear. It's so complicated that I feel confused just reading the manual.

- ● ● ● ● ●
- ① It's so complicated that I feel confused just reading the manual.
- ● ● ● ● ●
- ② It's so complicated that I feel confused just reading the manual.
- ● ● ● ● ●
- ③ It's so complicated that I feel confused just reading the manual.
- ● ● ● ● ●
- ④ It's so complicated that I feel confused just reading the manual.

[解説] 「6大品詞」についてのルールから、代名詞の *It* に強勢が置かれている①と②の可能性は即消える。

次に③だけど、*that* に強勢が置かれている。この *that* は「とても～なので…する」という、いわゆる *so ~ that* 構文の *that*。これは接続詞。つまり強音化する品詞ではないネ。ということで残った④が正解とわかる。
 《訳》 Cのボタンをおさえながら、DとFの両方を5秒間押してくださいか。もう…。本当に複雑だから、マニュアルを読むだけで混乱してくるよ。

ただ、この「6大品詞」のルールに関して、一つ注意しておきたいことがある。

6大品詞以外は基本的には弱音化するというけど、既に説明した「文強勢の4大ルール」が当てはまる場合には、6大品詞以外であっても強く発音されるんだ。

例題 8

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Shoko always has her coffee with her meal, I think.

B: Really? I prefer to have my coffee after the meal.

① ② ③ ④

[解説] A: 「ショウコはいつも食事と一緒にコーヒーを飲むと思うわ」

B: 「あらほんと。私は食事のあとでコーヒーを飲むのが好きだわ」

日本語訳でわかるように、Aの「一緒に」という *with* と、Bの「あとで」という *after* が対照関係になっている。*after* というのは品詞としては「前置詞」で、6大品詞ではない。しかし、先に述べた「文強勢の4大ルール」が当てはまるのでこれが正解となる。

このように、「文強勢の4大ルール」は全ての「その他のルール」に優先する
ということ覚えておこう。

ルール②：省略語を直後に持つ 助)動詞、不定詞は強く読まれる！

このルールも読んで字のごとし。ただ、これは実際の例文で見た方が早そうだ。
(下線部の語が強く読まれる)。

① A:Wow, that's a strong wind outside today!

ワァ～、今日は外は風が強いな

B:Yes, it is.

本当だね

② A:Hi, Fred, how about badminton on Thursday?

やあフレッド。木曜日にバドミントンしないかい

B:I would if I could, but I'm taking sailing lessons this week.

やりたいなあ。でも今週はヨットのレッスンがあるんだ

③ You don't have to go there if you don't want to.

もしそこに行きたくなければ行かなくてもいいよ

①のisの後には、a strong wind outside todayが省略されている。

②のcouldの後には、play badminton on Thursdayが省略されている。

③のtoの後には、go thereが省略されている。

ゆえに強く読まれるというわけ。

例題9

Q.次の対話において、①～④の語のうち最も弱く発音するものはどれか。

A:Hey! Your baseball just broke my window.

①

B:I'm sorry.

②

A:You have to be more careful when you play ball.

③

B:I will from now on.

④

[解説] これは最も弱く発音する語を選ばせる問題。まず品詞的に見てみると

①window(名詞) ③when(接続詞)

②sorry(形容詞) ④will(助動詞)

③と④は6大品詞ではない。つまり弱く読む品詞。ではどちらが正解か。
答えは③の方。なぜなら④の will は、直後に be more careful が省略
されていると考えられる。つまり直後に省略語を持つこの will は強く読
まれることになるんだ。

ルール③: 「So S V (おっしゃる通りです)」や「So V S (Sもまた～だ)」の構文は、末尾が強く読まれる!

これも例文で見たほうが早い。以下の英文の下線部が強く読まれる。

A : Are you pressed on money? 君、お金に困っているのかい

B : So I am. その通りなんです

A : I want to buy a new car. 新しい車を買いたいな

B : So do I. 僕もだよ

ルール④: 「名詞 (動名詞) + 名詞」の複合語は、前の名詞がより強く読まれる!

逆に「形容詞 (分詞) + 名詞」の複合語は、後の名詞がより強く読まれる!

(ex) a stone bridge cf: a small bridge
a sleeping bag a sleeping baby

上の例を見るとわかるように、a stone bridge (石橋) という単語は、stoneとbridgeという2つの名詞が合わさってできた複合語だ。この場合、前の名詞のstoneを強く読む。逆に「形容詞+名詞」の複合語は、a small bridge(小さな橋)のようにbridgeのほうを強く読む。

a sleeping bagというのは「寝るためのカバン (つまり寝袋)」という意味でsleepingは動名詞。ゆえにこれを強く読む。一方a sleeping baby「眠っている赤ちゃん」のほうのsleepingは現在分詞で、これは一種の形容詞とみなされ、その後のbabyが強く読まれる。

「おんなじ～ing形で見分けがつかないヨォ～(*´Д`) = 3」っていう人。現在分詞と動名詞の見分け方は、「～するための」と訳せれば動名詞。「～している」「～させるような」と訳せれば現在分詞だ。これなら見極めはカンタンだろ(^-^)

もう一つ注意しておく、と、「形容詞+名詞」の形容詞は、後ろの名詞に比べて弱めに読むというだけで、元来形容詞は6大品詞なんだから、(冠詞や代名詞などのような)それ以外の品詞みたいに全く弱音化してしまうというのではないからね。

例題 10

Q. 次の対話において、①～④の語のどれを最も強く発音すればよいか。

A: Are you free after work today? I was hoping we could do something together.

B: Well, sure, but aren't you going to the health club?

①but ②to ③health ④club

[解説] A: 今日仕事終わったら暇かい。一緒に何かできればと思ってたんだけど。

B: ああいいよ。でもヘルスクラブには行かないの？

①(but) は接続詞、②(to)は前置詞で、強く読む品詞ではない。残った「新情報」の「ヘルスクラブ」が問題だ。どちらを強く読むか。もちろん③(health)。「ヘルスクラブ」は health と club という二つの名詞の複合語。だから前の health が強音化するわけ。

ルール⑤：文末の前置詞や動詞は強く読まれる！

これについては簡単な例文を挙げておこう（下線部を強く読む）。

(ex) What did you get angry for? どうして怒ったの

How have you been? 久しぶり

ただし「～に関して」「～について」という前置詞の about, of 等は文末でも強くは読まない。

(ex) What are you so excited about?

何をそんなに興奮しているの

以上、文強勢のルールをまとめてみたけど、最後に一言、言っておきたいのは文強勢というは、人の感情によっても変化することがあるから、いずれにしても文脈や場面設定などをしっかりと把握して判断するという基本も忘れないでいてほしいってことだね。

2. 発話強調問題

(1) 発話強調問題ってなに？

発話強調問題とは、07年度から出題されるようになったいわゆる新傾向の問題だ。

下は実際に出題された問題。

例題 11

Q. 次の問において、話者が太字で示した語を強調して発音した場合、話者が伝えようとした意図はどれが最も適切か。それぞれ①～④のうちから一つ選べ。

Can **you** come to dinner on Friday at eight?

- ① I know your friend can't come, but can you?
- ② If lunch is inconvenient, what about dinner?

- ③ If you can't come on that day, how about Friday?
 ④ You work until seven? How about an hour later?

(2)強調される理由は3つ

対話において話者がある語句を強調する場合、その理由は大きく以下の3つに絞られるものなんだ。

- ①それが(相手に)一番伝えたい情報だから。
 具体的には以下の2つのどちらかであることが多い。
 1.自分の考え(主張)や事実(情報)
 2.自分の感情(喜怒哀楽)
- ②相手の発言(の一部)を訂正、批判したいから。
 ③相手の発言(の一部)を確認・念押ししたり、(他の何か・誰かと)対比・対照させたいから。
 特に疑問詞(who, what, which, how, why...)が強調される場合にはその傾向が強い。

1.その情報が聞き取れなかった、あるいは確認したくて疑問詞を強調する。

(ex) Excuse me, What did you say to me?

すみません。なんと私におっしゃいましたか

2.その情報を理解できなくて疑問詞を強調する。

(ex) A: You must make up for him.

君は彼に埋め合わせをしなくてはいけない

B: What do you want me to do?

ボクに何をさせたいんだ

典型的な③のタイプが例題11だ。

Can you come to dinner on Friday at eight?

「君は 金曜の8時に夕食にこれるのかい？」と、「君」が強調されるということは「他の誰か」は「これる(これない)」という隠れた対比(対照関係)がそこに存在しているのでは?と類推するんだ。その「他の誰か」を含む選択肢を正解として選ばばいいわけ。そう考えると①の「君の友達がこれないのはわかってるけど、君は?」が正解とわかる。「君の友達(your friend)」と「君(you)」との対比だったわけだ (^_^)v

一応それ以外の選択肢の訳もつけておこう。

- ②「もし昼食が都合が悪いなら、夕食はどうかかな?」
 ②が正解なら、問題文で dinner が強調されるはず。
- ③「もし君がその日にこれないなら、金曜はどうかかな?」
 ③が正解なら、問題文で Friday が強調されるはず。
- ④「君は7時まで働いているの?(それより)1時間後はどうかかな?」
 ④が正解なら、問題文で eight が強調されるはず。

①のタイプの問題が下の例題12だ。

例題 12

It was the perfect birthday. A huge vase of roses was in the middle of the dining table.

- ① I had never seen flowers there before.
- ② On the table was an unbelievably large vase.
- ③ My favorite flowers were on the dining table.
- ④ The vase was right in the center of the table.

まず話者は「それは完璧な誕生日だったわ」と言っている。その後で「(だって)バラの入った大きな花瓶がダイニングテーブルの真ん中においてあったのよ」と言っている。この「バラ」が「完璧な誕生日だ」という話者の喜び(感情)を端的に表す言葉になっている。とすると③の「私のお気に入りの花がダイニングテーブルに(飾って)あった」が最も自然だね。

これも一応それ以外の選択肢の訳をつけておこう。

- ① 「それ以前にそこに花があるのを見たことはなかった」
- ② 「テーブルの上には信じられないほど大きな花瓶が(置いて)あった」
- ④ 「その花瓶はちょうどテーブルの中心に(置いて)あった」

(3) 「隠れた対比 対照関係」「隠れた因果関係」で解けるものが一番多い

発話強調問題では、例題11のような「隠れた対比(対照関係)」、それから「隠れた因果関係」を類推することによって正解にたどり着ける問題が結構多いんだ。

「対比」については説明したので「隠れた因果関係」について説明しておく、たとえば以下のような対話で、

A: 「明日はピクニック行けるよね」

B: 「あ～、宿題たまってんだよね」

Bが「宿題」を強調して発話したとするなら、

「宿題(がたまっている)」 → 「ピクニックはいけない」

[原因]

[結果]

という「隠れた因果関係」が類推できるね。

だから、この種の問題の場合、まずはこの"隠れた"「対比」と「因果」を類推してみると、解法スピードはグンとアップするはずだよ (^-^)

ステップ・アップ問題

目標解答時間5分

[A] 次の対話の下線部において、最も強く発音する語を、①～④のうちから一つずつ選べ。

(1) A: Why don't you have your hair cut?

B: Well, I have had my hair cut.

① ② ③ ④

(2) A: My, you have certainly put on a lot of weight since the last time I saw you. Why don't you go on a diet?

B: I'm on a diet, but it just hasn't worked.

① ② ③ ④

[B] 次の下線を引いた文において、強く発音する部分を最も適当に示しているのはどれか。下の①～④のうちから一つ選べ。強く発音する部分は●で示してある。

(1) I was about to leave the supermarket, when I remembered that I had forgotten to buy some apples which my wife asked me to get for tomorrow's picnic.

● ● ● ●

① to buy some apples which my wife asked me to get for tomorrow's picnic

● ● ● ●

② to buy some apples which my wife asked me to get for tomorrow's picnic

● ● ● ●

③ to buy some apples which my wife asked me to get for tomorrow's picnic

● ● ● ●

④ to buy some apples which my wife asked me to get for tomorrow's picnic

(2) A : What are you going to buy at the store?

B : A tennis racket. What are you going to buy?

● ● ● ●
① A tennis racket. What are you going to buy?

● ● ● ●
② A tennis racket. What are you going to buy?

● ● ● ●
③ A tennis racket. What are you going to buy?

● ● ● ●
④ A tennis racket. What are you going to buy?

(3) A : Excuse me, but which way is the railroad station?

B : Well, it's this way. Walk about five block and turn to the right.

● ● ● ●
① Well, it's this way. Walk about five block and turn to the right.

● ● ● ●
② Well, it's this way. Walk about five block and turn to the right.

● ● ● ●
③ Well, it's this way. Walk about five block and turn to the right.

● ● ● ●
④ Well, it's this way. Walk about five block and turn to the right.

(4) A : Jane, dear, this dessert you brought to the party is delicious!

B : Thank you, Grandma, but I don't think many others like it.

● ● ● ●
① Thank you, Grandma, but I don't think many others like it.

● ● ● ●
② Thank you, Grandma, but I don't think many others like it.

● ● ● ●
③ Thank you, Grandma, but I don't think many others like it.

● ● ● ●
④ Thank you, Grandma, but I don't think many others like it.

[C] 次の問において、話者が太字で示した語を強調して発音した場合、話者が伝えようとした意図はどれが最も適切か。それぞれ①～④のうちから一つずつ選べ。

(1) I'm not going to the movie with **John** tomorrow.

- ① I'm going with someone else.
- ② John and I are going next week.
- ③ John and I are going to a baseball game.
- ④ I'm not going and neither is John.

(2) I wonder why my friends didn't tell **me** where the welcome party is going to be held.

- ① I was surprised when the teacher told me.
- ② It seems that everyone else was told all about it.
- ③ My friends told me the date and time of the party.
- ④ My friends told me where the ceremony will take place.

(3) **What** do you think about my summer plans?

- ① I already know what your friends think.
- ② I didn't understand what you just said.
- ③ I know what you think about my winter plans.
- ④ Your plans are good. How about mine?

ステップアップ問題 解答・解説

- 解答 [A] A(1)② (2)①
[B] B(1)③ (2)④ (3)③ (4)②
[C] (1)① (2)② (3)②

解説

- [A] (1)これは時制が「**対照関係**」になっている問題。Aは「髪の毛を切ったらどう?」と現在時制で質問している。それに対してBは現在完了時制で答えている。つまり「もう切ったんだよ」と反発しているわけ。で、現在完了時制であることを示す②(have)が強く読まれることになる。このように「**対照関係**」には、**両者のセリフの時制の「対照関係」というのもあるんだ。**

《訳》 A : どうして髪を切らないの?
B : あのね、私もう切ったんだけど。

- (2)これもまた「**対照関係**」の問題なんだけど、わかったらどうか。以下の両者のセリフに注目してほしい。

A : Why don't you go on a diet? ダイエットをしたらどう
B : I'm on a diet. 私、ダイエット中なのよ

つまり「go on a diet: ダイエットをする」の go と「be on a diet: ダイエット中である」の be(本文中では am) が「**対照関係**」だったわけ。

《訳》 A : あらまあ、あなた最後に会った時から確実にかなり太ったわよ。ダイエットでもしたらどうなの。
B : 私、ダイエット中なのよ。でも全然効き目がないのよ。

- [B] (1)これは「6大品詞」についてのルールで"秒殺"できてしまう問題だ。
①は不定詞の to に強勢が置かれているのでダメ。
②は関係代名詞の which に強勢が置かれているのでこれもダメ。
④は前置詞の for に強勢が置かれているのでこれもダメ。
というわけで残った③が正解とわかる。確かに③の場合、強勢が置かれているのはすべて「6大品詞」ダネ。

《訳》 私は今にもスーパーマーケットを出ようとしていた。とその時、明日のピクニックのために妻が私に買ってくるよう言っていたリングを買うのを忘れていたことを思い出した。

- (2)これは単純な「6大品詞」についてのルールだけでは正解にたどり着けない問題だ。プラスして「**対照関係**」のルールもからんでいる。
正解は④。それ以外がおかしいことについては「6大品詞」(とその例外)につい

てのルールで説明できる。①は be動詞の are に強勢が置かれている。動詞の中でも be 動詞は強勢が置かれなかった。②は不定詞の to、③は冠詞の A に強勢が置かれている。

正解は④なんだけど、強勢の置かれている語句の中で you は代名詞。「6大品詞」ではない。なのにどうしてここに強勢が置かれるんだろう。

実はこの会話で、AさんにとってのyouとはBさんのことであり、BさんにとってのyouとはAさんのこと（よく考えてみれば当たり前なんだが）。そしてこのyou同士が「対照関係」になっているんだ。

《訳》 A : 君(Bを指す)はその店で何を買うつもりだい？

B : テニスラケット。君(Aを指す)は何を買うつもりだい？

このように対照関係には、字面(じづら)的な「対照関係」だけでなく、内容的な「対照関係」というものもある(こっちの方が難易度が高い)ということ覚えておこう。で、「対照関係」になっているのだから、この you は強音化する、というわけなんだ。

(3)これも「6大品詞」についてのルールだけでなんとかなる。

①は接続詞の and、②は代名詞の it、④は前置詞の to に強勢が置かれているから正解にはなり得ない。ちなみに③の文中の this については、強音化するんだったね。

《訳》 A : すいません。鉄道の駅はどちらの方ですか。

B : ええと、こっちですよ。約5ブロック歩いて、右に曲がって下さい。

(4)①は動詞の中でも強音化することはない think に強勢が置かれている。③は代名詞の you や it、④は接続詞の but にそれぞれ強勢が置かれている。

正解は②なんだけど、others は代名詞。品詞的には強音化するものではない。ただこの会話では「(ジェーンが作ったデザートを美味しいと思っている)おばあちゃん」と「他の人(others)」が対照関係になっているので、品詞に関係なく強音化するというわけなんだね。

《訳》 A : まあジェーン、あなたがパーティに持ってきたこのデザート美味しいわね。

B : ありがとうおばあちゃん。でも他の多くの人には好きじゃないんじゃないかって思うの。

[C] (1)問題文の訳は「ジョンとは明日、映画に行くつもりはないよ」。

これは「隠れた対比(対照関係)」を類推することによって解ける問題。「ジョンとは行かない」ということは「他の誰か」とは行く可能性があるということか？と類推する。そこでそんな対照関係となりそうな語句を含む選択肢を探してみる。すると文字通り「他の誰か(someone else)」を含む①が正解となる。

《選択肢の訳》

- ①「他の誰かと行くつもりだ」
- ②「ジョンと僕は、来週行くつもりだ」
- ③「ジョンと僕は野球の試合に行くつもりだ」
- ④「僕は行くつもりはない。ジョンもだ」

(2)問題文の訳は「どうして友人達はその歓迎会がどこで開かれるのかを私に言ってくれなかったのかしら」。

これも(1)と同じタイプで、「隠れた対比(対照関係)」がポイント。「私には言わなかった」ということは「他の誰か」には言ったということか?と類推する。そこでそんな対照関係となりそうな語句を含む選択肢を探してみる。すると「他のみんな(everyone else)は言われていた」という内容を含む②が正解と見えてくる。

《選択肢の訳》

- ①「先生が私に言ってくれたとき、私は驚いた」
- ②「他のみんなはそれについて全て伝えられていたようだ」
- ③「私の友人達はそのパーティの日時を私に伝えてくれた」
- ④「私の友人達はどこでその式典が開かれるのか私に伝えてくれた」

(3)問題文の訳は「私の夏の計画についてあなたはどう思いますか」。

疑問詞(who, what, which, how, why…)が強調される場合は、以下のどちらかの理由によるものが多いんだね。

- 1.その情報が聞き取れなかった、あるいは確認したいから。
- 2.その情報を理解できないから。

正解は②(あなたが今言ったことが理解できませんでした)で、直前の相手の発言内容を確認するために What を強調したということなのだろうと判断する。

《選択肢の訳》

- ①「あなたの友達がどう思っているかはもう知っています」
罠①が正解なら、問題文で you が強調されるはず。
- ③「私の冬の計画についてあなたがどう思っているかはわかっています」
罠③が正解なら、問題文で summer が強調されるはず。
- ④「あなたの計画は素晴らしいですね。私の計画はどうでしょうか」
罠④が正解なら、問題文で my が強調されるはず。